

宮城・大古町遺跡

- 1 所在地 宮城県伊具郡丸森町字城東
- 2 調査期間 二〇〇二年(平¹⁴)六月～一二月
- 3 発掘機関 丸森町教育委員会
- 4 調査担当者 伊藤博道
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



置している。調査はこの国道一三号線改良工事に伴うもので、二〇〇二年度から実施している。平安時代から近世にかけての複合遺跡であるが、今回の調査で検出した遺構は、室町時代から近世にかけてのものが中心である。二〇〇二年度

の調査区は三地点あり、木簡が出土した調査区は、東西約50m南北約15m、面積は約750²mである。検出した遺構としては、掘立柱建物・竪穴住居・溝・井戸などがある。木簡は、井戸SE八から一点出土した。

8 木簡の积文・内容

法度

とう□□よりい□とあい
うけ□
さい□き^{らカ}
くかを□ふし
□□也
。い／＼□□□□を□く
□□事
右このむねぞむき候ハ、きし
そのミ□□く□也仍^{候カ}
如件
八月十日——(花押)

「」

ている。これは、釘で打ち付けたり、紐状のもので吊したりして掲

示するためのものである。文字は木目と直交する方向に二二行書か
れているが、遺存状況はあまりよくなく、墨が流れ辛うじて墨書
のあった部分の盛り上がりで確認できる文字が多い。第一行に「法
度」として題目を記し、これに続く第二行から第八行に具体的な禁
制の本文、第九行から第一一行に施行文言、最終行に日付と花押と
いう構成をとる。本文の釈読は断片的にとどまり文意は取り難いが、
第六行の「也」の下は余白になっており、次の行の頭に一つ書きが
ある。これより前の部分がこの禁制が出された経緯、一つ書きのあ
る第七・八行が禁制そのものの内容を書いた部分と考えられる。

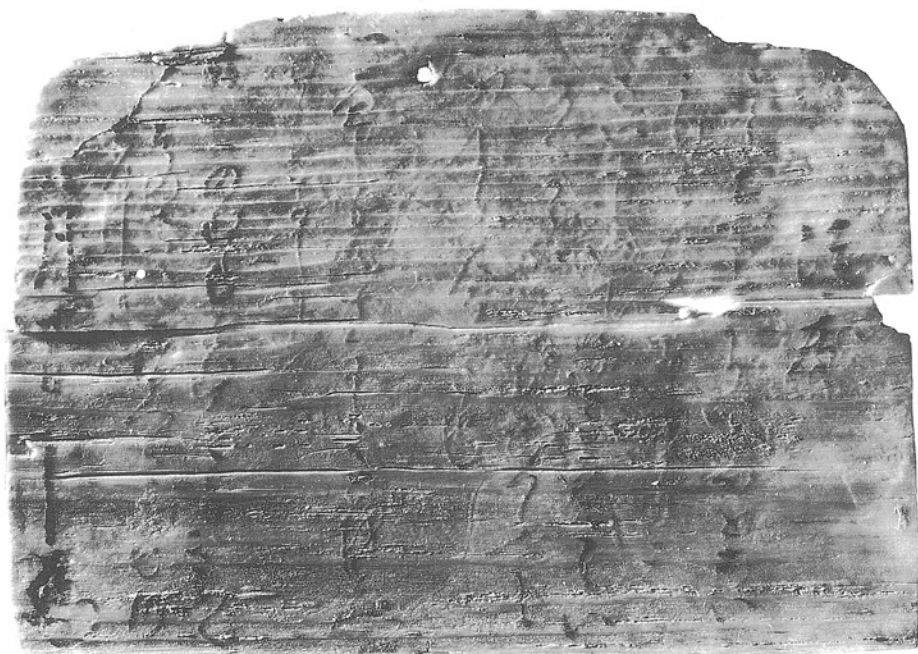
なお、釈読にあたっては、東北歴史博物館の手塚均氏・籠橋俊光
氏・塩田達也氏、奈良文化財研究所の綾村宏氏・吉川聡氏・馬場基
氏・山本崇氏・渡辺晃宏氏のご教示を得た。また、写真は奈良文化
財研究所の中村一郎氏の撮影による。

9 関係文献

丸森町教育委員会『大古町遺跡』（丸森町文化財調査報告書一七、二

〇〇三年）

（伊藤博道）



（赤外線デジタル斜光写真）